

快適で住みよい地域づくりを目標とする

串間市自治会

皆さんは自分の地域のことや串間の各地域のことをどれほど知っていますか。串間市の各自治会の現状を、自治会連合会の各地区会長に伺いました。

地域住民が自ら考え、行動することにより快適で住みよい地域づくりを目指す組織「自治会」。現在、串間市には153の自治会があり、それぞれ地域に根ざした行事や活動を行っています。

自治会はわたしたち市民が生きて行く中で、もつとも身近でなくてはならない組織。今後、少子・高齢化や時代の変化に伴うさまざまな問題に対応するためにも、住民の自発的な地域づくりや行政との連携が不可欠です。

そこで、皆さんに串間市の各自治会の現状を知っていただくため、自治会連合会会長の村上会長をはじめ、各地区の地区会長にお話を伺いました。

住んでよかったと思える地域づくり

わたしは大東地区・奈留の区長、自治会長を7年ほど務めてきましたが、初めて区長となった際にまず感じたことは、とにかく住民に元気がないことでした。

このことは奈留だけではないと思います。少子・高齢化が進み、地域の行事なども少なくなる中、住民はただ義務的に集会の際に顔を合わせるような状況でした。

そんな中で地域の行事を行っても建設的な意見や行動は出てきません。そこで「すべて自分の地域のためなことなんですよ」と自治会の取り組みの必要

性を説明し、住民一人ひとりに理解してもらうことから始めました。

意識が変わると住民同士のコミュニケーションも深まり、これまで何をすることも悲観的だった雰囲気も良くなりました。近年行っていない敬老会も再開し、少しずつですが地域が元気になってきたと思います。

自治会は小さな市町村と同じ、そこに住む住民にとって「住んで良かった」と思える自治会にしなければなりません。行政との連携も大切ですが、もつと自分の地域をよく目を向けて「地域を守るの自分たちしかない」という意識を各自治会長をはじめ、住民を含めたみんなが持つてほしいと思います。

現在、わたしが会長を務める串間市自治会連合会では、各自治会の活動内容の事例発表を昨年度から行っています。今年度も1月24日に串間市文化会館で「串間市自治会連合会事例発表会」を開催。市内各地区を代表した6自治会が日ごろの活動状況を発表しました。

発表を行った自治会は、元気なところばかりではありません。良い点、悪い点を含めて地域の状況を知ることが必要です。また、今回は行政から自治会へ期待することについても話していただきました。行政と自治会の取り組み、そして地域の現状と課題をみんなが把握し、活力ある地域づくりに繋げたいと考えています。



1月24日に行われた自治会連合会事例発表会

平成21年度 串間市自治会戸数

(平成22年2月現在)

- 福島地区 3,668戸
- 北方地区 6,10戸
- 大東地区 1,027戸
- 本城地区 7,42戸
- 都井地区 4,58戸
- 市木地区 4,27戸
- ◎ 串間市全戸数 6,932戸

福島地区

地域住民が連携して助けあうこと

現在、福島地区の自治会の数は47。環境の違いや規模の大きさなど、小さなところさまざまです。各自治会が抱える悩みも多種多様ですが、良いところもそれぞれあり、一部の自治会だけが良く、また悪いということはないと思います。ただ、各自治会が良くなるために共通して言えることは、地域住民が連携して助けあうことではないでしょうか。自治会への加入促進やゴミ問題、人材不足による地域行事の衰退。どれも住民同士が理解し助けあわなければ解決できないと思います。

特に共通の課題として心配なのは、住民の命に関わる自治防災です。各自治会の状況に合わせた組織づくりや防災訓練などを行い、有事に備える必要があると感じています。



福島地区会長 (東金谷自治会長) 立本 伊佐男 さん

北方地区

自治会と行政の連携

北方地区でも少子・高齢化は確かに進んでいます。若い世代の方々もけつこう地域に残っています。そのため各自治会若い世代の会長が多くなってきましたが、仕事や家庭の都合で思うように活動できない方が多いようです。

自治会に求められるものは年々大きくなるばかりですが、その要求や課題に応えられる余裕をみんなが持てないのが現状ではないでしょうか。

だからこそ行政にはもつと積極的に自治会を牽引してほしいと思います。地域が苦しい今、住民の声をよく聞いてまず行政が行動を起こしてほしいですね。そうすることで自治会と行政、お互いの信頼が生まれ、何事も連携して取り組むことができるようになるのではないのでしょうか。



北方地区会長 (倉掛自治会長) 中村 秀男 さん

本城地区

みんなが参加しやすく工夫することも大切

本城地区では、地域の夜間パトロールを行う「本城ナイトレンジャー」への協力や、サロン会を通じての小中学校との交流などさまざまな取り組みを行っています。しかし、現在、各自治会長の協力は決して多いとは言えない状況です。自治会長は自分たちの地域の代表だという自覚をもう少し持つてほしいと思います。

各自治会の活動も同じです。一人でも多くの住民の協力が重要です。そこで、みんなが参加しやすく工夫することも大切だと考えます。港自治会では、住民一人ひとりに声をかけ、参加する際に負担が少なくなるよう行事の内容を考えるなどして積極的に参加を促しています。人が集まれば地域も元気になるはずですよ。



本城地区会長 (港自治会長) 林 藤男 さん

都井地区

若い世代へ地域の伝統を伝える

都井地区では、昔から伝わる地域の行事を今でもしっかりと受け継ぎ取り組んでいる自治会がほとんどです。高齢者の多い規模の小さな自治会もあります。が、どの自治会も地域を守る意識は高いようです。

行事数も多く自治会長はたいへんですが、自分の地域のため在任中はみんな「はまっつ」取り組んでいます。

また、迫、東合同の敬老会や迫、東に宮原、宇戸も含めた4地区で行う夏祭りなど、地域間の交流も深く、都井岬火まつりでは都井地区全体の若者が祭りに参加しています。

都井地区がこれほど元気なのは、近年、地域に若い世代が後継者として残っているからかもしれません。地域の良き伝統を若い世代に伝えることが現在の都井地区の課題です。



都井地区会長 (迫自治会長) 早瀬 末男 さん

市木地区

地域に元気を取り戻すために

少子・高齢化や過疎化が進み、地域の行事を行えない自治会が多い。これが市木地区の現状です。しかし、市木地区住民が元気が無い訳ではありません。それぞれ仕事に励み、頑張っています。これは、昔は生きるためにみんなが協力し、地域が団結していましたが、生活環境の向上によりその必要がなくなったことが大きな原因ではないかと考えられます。

だからといって自分の地域が無くなっても平気な人はいません。地域の人々が集まる。そんな行事があればうれしいはずですよ。そこで今回、市のモデル自治会として「古都・八ヶ谷高齢者交流懇親会」を2月18日に実施することになりました。両地域が少しでも元気を取り戻すことができれば、よいモデルになると期待しています。



市木地区会長 (八ヶ谷自治会長) 川崎 永伯 さん